



2016年オートボックス 全日本カート選手権 第1戦・第2戦

■開催日: 3月26~27日 ■開催場所: 栃木県・ツインリンクもてぎ北ショートコース ■天候: 26日晴れ/27日曇り ■路面状況: ドライ ■参加台数: 24台

国内カートレースの最高峰、全日本選手権KF部門の2016シーズンが3月26~27日に開幕した。この選手権は5つの大会から成り、各大会で2レース全10戦のシリーズ戦が行われる。開幕ラウンドはワールドカップなど数々のビッグイベントの舞台となったことで知られる栃木県・ツインリンクもてぎ北ショートコースで開催された。

トヨタ・ヤマハレーシングチームは太田格之進 (30号車) と三宅淳詞 (31号車) の2名を擁して、今季もこの選手権に参戦する。昨年に引き続きチームの一員を務める太田は、KF部門2年目のドライバー。この部門初参戦だった2015年は、3戦でポイントを獲得したが、今年はさらなる結果を求めてレースに挑む。一方の三宅は全日本選手権FS-125部門からステップアップしてきたルーキー。2015年のFS-125部門では西地域で5戦中3勝を挙げ、年間ランキング4位となった期待の新鋭選手。

24台の参加を迎えたもてぎ大会は、初日にタイムトライアルと第1戦の予選ヒートを、2日目に第1戦の決勝と第2戦の予選・決勝を行なう2デイ制で開催される。快晴に恵まれた大会初日、タイムトライアルでは三宅がKF部門初レースながら堂々の走りを披露して3番手を獲得。太田は19番手から追い上げを狙うこととなった。





第1戦 太田格之進：予選12位・決勝リタイア/三宅淳詞：予選4位・決勝7位

予選ヒート (16周)

予選ヒートは、日が傾きかなり気温が下がったコンディションの下でスタートした。三宅は前方のグリッドにいたマシンのトラブルにも乗じて順位を上げ、1周目をトップで通過。その後もトップのまま周回を続ける。ヒート中盤には3台の先行を許した三宅だったが、終盤は真後ろに迫ったマシンの猛攻を押さえ切って4位でチェッカーを受けた。太田は常に前後をライバルに囲まれながらも、脱落するマシンが相次ぐ中で着々とポジションを上げ、12位でフィニッシュした。

決勝ヒート (26周)

大会2日目の午前中に行なわれた決勝は、空に広がる雲間から薄日が差す中でのレースとなった。そのスタート直後、1コーナーで多重クラッシュが発生。ここに太田が巻き込まれ、無念のリタイアとなってしまった。

一方、スターティンググリッドの2列目から発進した三宅は、レース序盤の混乱の中で一旦は9番手までポジションを下げることになるが、ここから三宅は粘り強い走りを見せ、大集団の中でバトルを展開しながらも着実にラップを重ね、デビューレースを7位でフィニッシュした。

2016年全日本カート選手権 KF class 第1戦 リザルト (24台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	9	高橋 悠之	TONYKART RACING TEAM JAPAN	26
2	24	大草 りき	スクーデリアLCT	26
3	34	角田 裕毅	Drago CORSE	26
7	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	26
22	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	0

第2戦 太田格之進：予選6位・決勝リタイア/三宅淳詞：予選5位・決勝2位

予選ヒート (16周)

空はまだ雲に覆われているものの、ますます良好なコンディションを保った状態で第2戦の予選ヒートが始まった。三宅はスタートで後方グリッド2台の先行を許したものの、最前列の2台がスタート直後のアクシデントで姿を消したこともあり、3番手をキープ。一方の太田はオープニングラップで10台をパスして9番手までポジションアップすることに成功した。

レースが終盤に入ると、5番手に下がった三宅のすぐ後ろまで太田が浮上。太田は後続車のアタックを巧みに退けながら、三宅に遅れることなくチェッカーを目指す。結局、三宅はこのヒートを5位でゴール。ファステストラップを叩き出しながらの追い上げを演じた太田は6位となった。

決勝ヒート (26周)

空を覆う雲は厚みを増したものの、心配された雨が降ってくる気配はない。ひんやりとした風が吹く中、この大会最後の戦いが始まった。

三宅と太田はスターティンググリッド3列目に並んでスタート。オープニングラップを三宅6番手、太田9番手で終えた。ここからの追い上げが期待された4周目、太田が後続のマシンに追突され、第1戦に続いてリタイアを喫してしまう。

一方の三宅は、5台が列を成す第2集団の中で周回した。レースが中盤戦を迎える辺りから好調なペースで挽回を開始すると、間もなく先頭集団をも捕らえ、17周目にはついにトップに立った。

三宅は後方から追い上げてくる選手の猛攻を受けながらも、落ち着いた走りでも周回を重ねるが、その相手とのバトル中に追突されたこともあり、20周目に先頭の座を譲り渡した。さらにもう1台が真後ろに接近してきたのだが、ここで踏ん張りを見せ、2番手の位置を守り切ってフィニッシュ。KF部門初めての大会で堂々の表彰台を獲得すると同時にチームに久しぶりの表彰台をもたらした。

2016年全日本カート選手権 KF class 第2戦 リザルト (24台)

Pos.	No.	Driver	Team	Lap
1	11	名取 鉄平	Team Birel ART	26
2	31	三宅 淳詞	TOYOTA YAMAHA RT	26
3	9	高橋 悠之	TONYKART RACING TEAM JAPAN	26
21	30	太田 格之進	TOYOTA YAMAHA RT	3

北條 裕 監督

三宅選手はKF部門で初めてのレースでしたが、練習の段階から調子よかったですし、セッティングに関するコメントも的確でした。第2戦の予選ヒートでエンジンに問題を抱えながらもしっかり完走したことも評価できる点です。今回のレースの結果は、デビュー戦としては充分評価に値します。まだトップカテゴリーに対する余計な先入観を持たず、沈着冷静なメンタル面が奏功し、いい結果につながったのだと思います。

太田選手は、不運な展開になってしまいました。それでも第2戦の予選でファステストラップを記録するなど速さは見せることが出来、今後に期待できると思います。ただ、レースウィークを通じての組み立てが良くなかったことは、今後に向けての課題といえるでしょう。

今大会はマテリアルの面で何も問題がなく、チーム全体として調子よく戦うことができました。ドライバーにはこの結果に満足することなく、気を引き締めてもらうとともに、次の大会もこの調子を維持して望めるように全力を尽くします。

30 太田 格之進 /Kakunoshin OTA

AGE:16



タイムトライアルの順位が19番手と良くなく、それが両方のレースに影響するため辛い展開となったのですが、第1戦も第2戦も予選で順位を上げられたのはよかったです。特に第2戦の予選ではファステストラップも取れて、だいぶいい方向に行った感触がありました。ただ決勝は、第1戦では内側にいたマシンのコースアウトに巻き込まれ、第2戦では後続のマシンにぶつけれられて、どちらもうまくいきませんでした。

昨年1シーズンKF部門を戦って、トップカテゴリーの経験を積むことができました。2年目の今年は焦らず落ち着いてレースをしたいと思います。僕たちが使用するブリヂストンは去年に比べて性能が向上して、勝てるタイヤを提供していただけたと感じます。次の大会ではその高い性能を生かして、表彰台に乗れるように頑張ります。

37 三宅 淳詞 /Atsushi MIYAKE

AGE:17



第1戦はKF部門初めてのレースで7位になることができました。ただ、経験豊富なドライバーが多い中で勝負できるタイミングで躊躇していると、後ろのマシンにどんどん抜かれてしまうことに危機感も感じました。去年まで参加していたレースと違って簡単には通用しない世界だということを感じさせられたレースでした。

第2戦は、予選でぜんぜんペースが上がらなかったのですが、そこから気持ちを切り替えて初心に戻って走れたことが、いい結果につながったのだと思います。トップを走っている時はいい感触だったのですが、最終的に2位に終わったのは、自分の実力の足りなさが原因だと思います。

この大会が始まる前は、自分が経験に勝るドライバー達に通用するかどうか不安だったのですが、その点に関しては手応えをつかむことができました。今回は予選のペースが悪かったので、次の大会では全ヒートをいいペースで走れるように頑張りたいです。

総合ポイントランキング

1. 高橋悠之 (62/62) 2. 角田裕毅 (55/55) 3. 名取鉄平 (50/50) 4. 三宅淳詞 (49/49) 5. 菅波冬悟 (48/48) 6. 朝日ターボ (39/39)
7. 大草りき (36/36) 8. 西村拓真 (25/25) 13. 太田格之進 (5/5)